

\usepackage{booktabs} \usepackage{caption} \usepackage{longtable} \usepackage{colortbl}
\usepackage{array} \usepackage{anyfontsize} \usepackage{multirow}

ビブリオバトル入門：読む楽しみを分かち合う《2025》

シラバス

荻谷 千尋

Wednesday, 1, Oct, 2025

I. 授業の主題

ビブリオバトルは、発表者がお勧めの本を持ち合い、1人5分の持ち時間で紹介（書評）した後、発表者と観客が一番読みたくなった本（「チャンプ本」）を決定するというイベントです。

この授業はビブリオバトルの基礎的知識を習得し、実際にビブリオバトルを実践します。毎回の授業は少人数のグループワークが中心です。ビブリオバトルのあとは、アフターセッションの時間を設け、追加の質問や感想などを自由に意見交換します。

受講生はビブリオバトルでの本の紹介を通して、あらためて自分の「好きな本」、「面白い本」、「大切な本」を見つけるスキルやその内容をまとめる力を身につけるとともに、プレゼンテーション能力、ファシリテーション能力、タイムマネジメント能力を磨くことができます。

受講生は、全国大学ビブリオバトルなどでの活躍が期待されますが、このような全国大会への参加は必須ではありません。ビブリオバトル自体にはそれほど興味はない学生の受講を歓迎します。本好きな学生の、学域、学類を超えたサロンのような場になればと思っています。

II. 学修目標（到達目標）

1. 受講生が、自分の好きな本もしくは研究にかかわる本を選び、ブックカードにしたがって要点をまとめ、本を紹介できる
2. 受講生が、他の受講生のプレゼンテーションを聞き、積極的に質疑応答に参加することで、傍観者ではなく、グループワークの担い手となることができる
3. 受講生が、自分の関心分野だけでなく、他の受講生の紹介する本に触れることによって、様々な分野に関心を広げることができる
4. 受講生が、実際のビブリオバトルを意識して、プレゼンテーションを演出できる

Note

公式サイトに掲載のシラバスではブックシートと表記していましたが、要点だけを書いて欲しいので、ブックカードにあらためています

III. 講義スケジュール

- ・リンクを参照

IV. 評価方法と割合

1. 評価方法

次項の項目及び割合で総合評価し、次のとおり判定します。

- ・ S（達成度90%～100%）
- ・ A（同80%～90%未満）
- ・ B（同70%～80%未満）
- ・ C（同60%～70%未満）

以上を合格とし、「不可（同60%未満）」を不合格とする。（標準評価方法）

2. 評価の割合

- 授業の感想：30%
- ブックカード：30%
- 学期末振り返りレポート：10%
- プレゼンテーション：10%
- 受講態度：20%

Warning

※授業には3分の2以上の出席を必要とします ※評価基準は、授業目標に準じます

3. ルーブリック

Important

ルーブリックの評価項目およびグレードは、学修目標（到達目標）に対応して設計されています。成績評価についての質的な判断をする場合、このルーブリックに準拠します

V. 授業時間外の学修に関する指示

1. 予習に関する指示

授業内で紹介する本を事前に読み、紹介の仕方について授業までに考えてきて下さい。この授業のためにわざわざ本を選び、読む必要はありません。趣味で読んでいる本、この授業以外の授業あるいは研究のために読んだ本でかまいません。

学期中に3冊前後の本を紹介することになります。好きな本と研究分野にかかわる本が対象です。要約については、ブックカードにしたがってまとめて下さい。ブックカードの他、学期末振り返りレポートが課されます。

2. 復習に関する指示

授業の感想を指定のフォームに入力下さい。

教科書・参考書

参考書

- 谷口忠大（2013）『ビブリオバトル：本を知り人を知る書評ゲーム』（文春新書）
- ビブリオバトル普及委員会（2013）ビブリオバトル入門：本を通して人を知る・人を通して本を知る（情報科学技術協会）

教科書・参考書補足

教科書は使用しません。教材は適宜、授業サイト（<https://kariyach.github.io/teaching/Biblio-battle/>）を通して配布します。

オフィスアワー・連絡先等（学生からの質問への対応方法等）

随時、対応します。授業の際、またはメール（kariyach@staff.kanazawa-u.ac.jp）による事前連絡にて、日時を調整します。